



すすんで やさしく たくましく ~みんなでつくろう!一人ひとりがかがやく津田小学校~

運動会

~練習がんばってます~

6月2日(日)は、いよいよ運動会です。児童のみなさんは、どの学年も一生懸命練習に取り組んでいますね。その一生懸命さが、きっとすばらしい演技や競技につながることでしょう。

「集中して 最後まで」

これは、児童のみなさんが決めた今年の運動会の目標です。みなさん一人ひとりの思いと行動で、ぜひ思い出に残る運動会にしてほしいと思います。

【保護者・地域の皆様へ】

日ごろより本校にあたたかいご支援をいただき、誠にありがとうございます。子どもたちが楽しみにしている運動会が近づいてまいりました。子どもたちは互いに助け合いながら、一生懸命練習に励んでおります。どうぞ子どもたちのがんばりにあたたかいご声援をお願いいたします。

また当日は、保護者の皆様に参加いただくPTA競技もごさいます。どうぞふるってご参加ください。



入場行進

3・4年

遠足楽しかったよ!

4月26日(金)は、全学年とも、春の遠足に出かけました。気持ちのよい青空のもと、子どもたちは、それぞれの目的地で、元気いっぱい活動し、たのしい時間をすごしました。



1・2年

岬公園にいきました。みんなでいろんな動物をみてまわりました。イルカショーもみきました。イルカがとてもかしく、かわいらしかったです。また乗る物にも乗ることができ、とてもたのしかったです。



3・4年



2019/4/26

長居公園に行ってきました。まず大阪市立自然史博物館に入り、いろいろな展示を見学しました。そのあと植物園に入り、さまざまな食物や花々を見学したり、公園の遊具でいっぱい遊びました。



5・6年

奈良公園に行ってきました。大仏の大きさに改めて驚きました。シカがたくさんいて、かわらしかったです。公園内を班でめぐりました。新緑の中、みんなで食べたお弁当はとってもおいしかったです。



5/23 パッカー車にゴミを投げ込む児童

パッカー車が学校に!

4年生の社会科学習のために、市役所の廃棄物対策課からパッカー車が来てくれました。子どもたちは、学校で集めたごみをパッカー車に入れる体験をさせてもらい、職員の方からお話を聞かせていただきました。この取組みをとおして、子どもたちはゴミ収集の仕事のたいへんさや、物を大切する心を学びました。

たて割り活動スタート

津田校では異年齢集団による活動を大切にしています。1年生から6年生を縦割りで9班に分けたつだっ子班、1・5年生、2・4年生、3・6年生の組み合わせで活動するペア学年交流、1・2年生、3・4年生、5・6年生の組み合わせで活動するブロック学年交流などを通して、心の通い合う仲間づくりをめざしています。



5/9 つだっ子班遊びのようす

「みんなで守ろう! 子どもの命」
子どもが犠牲になる悲しい事件が相次いでいます。保護者・地域の皆様には、より多くの目で子どもたちを見守っていただけてますようお願いいたします。

日	曜	6月行事予定
2	日	運動会
3	月	運動会代休 諸費振替
4	火	運動会代予備日 放課後学習高学年
7	金	児童委員会
10	月	児童集会「生活アップ週間」 つだっ子班遊び 放課後学習低学年
11	火	1・3年交通安全指導 放課後学習高学年 歯科検診 生活アップ(~17日)
13	木	4年津田浄水場見学
14	金	クラブ開始
15	土	ひろっぱ「逃走中」
17	月	放課後学習低学年
18	火	授業参観・懇談会・講演会 全学年下校 15:25
19	水	レントゲン撮影(該当児童) 4・5・6年全国体力・運動能力テスト
20	木	3年市内めぐり PTA 実行委員会
21	金	クラブ
22	土	貝塚集まれ子どもたち
23	日	PTAソフトボール大会(予備日7/21)
24	月	放課後学習低学年
25	火	学校水泳(午前・全学年) 放課後学習高学年
27	木	学校水泳(午前・全学年)
28	金	ひまわり号 クラブ

子どもたちをどう守るか？

校長 坂本幸仁

また幼い子どもたちがねらわれた。川崎市での小学生らを襲った凶行。登校中の、何の防備もない子どもたちにふりかかった惨劇に言葉がない。犠牲者の一人は小学校6年生の女子児童だった。いつもと変わらない朝をむかえ、いつもと変わらない場所でスクールバスを待っていた。そしてバスに乗り込もうとした直前に命を絶たれてしまった訳だが、いったいだれがそんなことを予測できただろうか。子どもに先立たれた親の苦しみ、悲しみはいつもでも消えることはないであろう。

このところ幼い子どもたちが犠牲になる悲しい事件や事故が相次いでいるが、私たちはいったいどうすれば子どもたちを守ることができるのだろうか。学校をはじめ、地域全体がこのことを問われている。

新聞によると、子どもの安全に詳しいある大学の先生は「過去の犯罪でもこうした場合に、子ども自身が身を守るのは不可能だ。」と指摘している。これまでの事件を振り返ってみても、社会の中で弱い存在であり、判断力の乏しい子どもが犠牲になるケースが多い。

平成13年6月に発生し、今年で18年目になる大阪教育大学附属池田小学校の児童殺傷事件をきっかけに、全国的に学校の安全対策は強化された。津田校でも校門に受付員が常駐したり、さまざまな避難訓練を実施したりするとともに、地域のボランティアによる登下校の見守り活動が続けられている。貝塚市としても、青色の回転灯を付けたパトロールカーが登下校時に通学路を巡回してくれている。

しかし、これらのことですべての子どもたちを守ることができるわけではないだろう。前出の大学の先生は「今回の事件は、日本社会の安全神話が崩れていることを示す象徴的な事件だ。親が送迎することも含め、私たちはこうした現実立ち向かわなければならない。」と述べている。

では、私たちにできることはいったいどんなことなのだろうか。「再度通学路の安全を確認する。」、「見守り活動をボランティアの皆さんの協力のもとに強化する。」、「子どもが『あれ、おかしいな』と感じた時に、すみやかにその場を離れるなど、具体的に自分の身を守る方法を教える。」「通学路で起こるかもしれない危険について子どもと話し合う。」など、すぐに思い浮かぶのはこれぐらいのことだ。

途方もない悪意を前にして、子どもを守ることができる完全な方法などないのかもしれない。けれども、それでも何とかして子どもを守っていくという地域や学校の「強くて、あたたかい善意」の連携こそが大切なのではないかと感じている。